

愛媛電友会会報

第 9 号
 発 行 人 山崎義己
 発 行 所 山崎義己町4番地
 松山市南持田
 電気通信共済会
 四国支部内

目次

- 回想独語……………一
- 従軍回顧……………三
- 短歌遍路行……………五
- 催眠若返り法……………五
- 故松本久米一氏を悼む……………六
- ご 連 絡……………七
- 編集後記……………八

回想独語

『朝鮮敗戦日記』

松山二 神武弘

○ 晴天のへきれき

昭和二十年八月十五日(水)、
 首都京城は薄曇りの蒸し暑い空模
 様で明けた。
 毎月十五日は戦勝祈願の神社参
 拜日、官衙職員は男は国民服、女
 子はモンペで事務開始前に団体参
 拝するのが恒例であった。
 すでに久しく戦況不安で内心お

ちつきを失った折柄、正午の重大
 ニュースの放送は誰も胸中に明暗
 まちまちの期待を秘め、息を殺
 して傾聴した。
 無条件降伏！予想だにしなかつ
 た最悪の決定は聴いた者に、心の
 動揺を表情に現はさないよう自制
 させた。当時は従業員の構成が二
 対五という日本人対朝鮮人の比率
 であったから、職場の雰囲気には
 早くもその日のうちに微妙な異和
 感が流れ始めた。

○ 一夜明けた街頭異変

十六日、驟雨の去来する市中の
 様相は前日までとは打って変り、
 街頭には急ごしらえの幟やプラカ
 ードを押したてた群衆が現はれ、
 日本の敗戦を嘲ける歓声をあげな
 がらデモった。
 その街路を、周辺の守備を解い
 た軍隊が雨にぬれながら、泥まみ
 れの戎衣で軍馬をひき、或は装備
 を担いで、黙々として集結地向
 って行進する光景は実に見るに耐
 えない対照であった。
 この混乱とどよめきは日毎に激
 しさを増しつつ、来る日も来る日
 も繰り返して展開された。

○ 市民生活の混迷

十七日には貯金の払出しが窓口
 に殺到したが、いち早く当局の緊
 急対策が発表されて、郵便貯金を
 除く総ての預貯金や有価証券類は
 日本に持ち帰れないこと、と決つ
 たので、形勢は逆転し、一般の金
 融機関から払い出した現金は直ぐ
 そのまま郵便局に持ち込まれ、預
 入事務と現金処理に全局をあげて
 当る異常事態が起った。
 一般官衛も警察そのものも呆然
 と混迷の怠業状態に陥り、市中の
 雑踏の中を放心虚脱の日本人が不
 安な面もちで、右往左往するうら
 ぶれた姿は目を追うて著るしく人
 目を引いた。

○ 朝鮮軍の孤軍決戦説

集結軍隊の往来も一段落した八
 月二十五、六日頃、応召局員の中
 に時限外出で帰局した者があつ
 て、極秘の情報として伝えたの
 は、朝鮮軍は降伏を拒否して全軍
 決戦の士気に燃え、日夜作戦計画
 を練っておる事実であった。底知
 れぬ暗い危惧におそわれたが、
 二、三日経つと、東京から勅命の
 特使が飛来して慰撫説得に努めた

結果、悲壮な抗戦は避けられた、という情報が耳に入って安心した。

○ 占領軍との接触

九月五日、比島のマックアーサー司令官から先発将校が飛来し、朝鮮ホテルで日本軍側と接触するに当り、通訳陣を日本人で構成する方針が決って、(註、占領軍の伴った通訳は全部朝鮮人ばかり)参加して驚いたことには、有史以来敗戦を知らない日本軍の提案の中には、次のような甘いものが含まれておった。

「日本軍隊は、在留日本人の引揚げ完了のあと、武装のまま朝鮮を撤退し、日本本土の上陸港に於て武装解除を受けたし……。」
「両軍代表の接触は交渉ではなく、敗戦の日本軍に対する戦勝連合軍の命令の伝達であった。」

「九月八日の日没までに首都京城から指定の距離まで全軍退去し、当該地に於て武装解除の上、直ちに乗船帰国すべし。」

「両代表の接触が短時間で終わったその晩から、昼夜不眠不休の撤退作業の大騒音が軍区竜山を圧した。」

八日(土)、生憎く曇った雨もよいの天候であったが、松山出身の大蔵省高級官僚の一人で、軍司令部付で応召中だった岸喜二雄氏が早朝来訪して、滞城中の交友を謝し悄然として出て行かれたのも印象深く心に残る。

○ 日本軍政の終焉

日清、日露の両戦勝を経て一九一〇年(明治四十一年)、伊藤博文を中心とした日本外交が日韓合併を達成して以来、陸軍参謀本部、朝鮮軍司令部、関東軍司令部の三点を連結した日本軍国政策の活線の上の中間点として、朝鮮総督統治の原動力の使命を承った大朝鮮軍(数ヶ師団)は、名実共に昭和二十年九月八日不戦解体の姿で消滅し、三十六年間の多事多端な半島支配はあえなくも幕をとじたわけである。

○ 嘲罵にさらされた残留日本人

日本軍撤退、日本法権消滅、日本人の生命財産の安全を保証する実力は何一つもなくなった不安な生活環境は、社会生活の無重力状態でも云うようなものであった。

残留日本人が不眠の憔悴にやつれ切った頃、北鮮方面(ソ連軍占領地区)からは身の毛のよだつような悲報が、次ぎつぎに伝って来て人びとの胸は締めつけられた。

○ 占領軍入城

九月九日(日)、晴、暑。
朝鮮半島南半(三十八度線以南)への占領軍(実体はアメリカ軍)は仁川港に上陸して京城に直行し、午後は京城府(市)内の主要官衛に配備された。

竜山局には、軍区の関係もあつてか、特に若い佐官を隊長とした十数名が配置された。泥にまみれた軍装、髻だらけの面相は激戦地の雰囲気を実感させた。

幾年ぶりに口にするとだどどしい英語で自己紹介して、要望事項等を求めると、「君は日本人が朝鮮人か。」「君はハワイ生れか。」「君の身辺に危険はないか。」「安心せよ、我々は朝鮮人の通訳は使はないで、今後はすべて君と直接に交渉する。」等等、早くもアメリカ人らしい気安さをみせた。

勤務交替で休み時間になると、礼儀正しく扉をノックして局長室

には入って来ては、暫らく話をしたいが差支えないか、と伺って異境の生活をするのであった。

「あなた方は志願兵ですか。」「と、問うたら、彼らは互に目くばせして苦笑しながら、「なんで志願兵なもんか、無理無体に襟首をつかまれて拉致された強制徴兵だよ。」

○ 思想、言動の急悪化

日米両軍の機敏な交替は暴動発生の間隙を許さなかったので、京城の治安は表面上静穏を保ったが、永年海外各地に在って朝鮮独立運動を指導しておった、所謂抗日活動家といった人物が相ついで京城に帰還し、民衆の排日運動を組織的に開始するようになると、特に官衙従業員の思想には急速な変化が現はれ、労組の結成、日本人幹部に対する不服従、既往の運営についての摘発又は告発、無実の申告等と、全く常軌を逸した下剋上には誰もが心身をさいなまれた。

日本人の財産や所持品の売買も当初は、寧ろ買い漁りの傾向があったが、引揚げ日本人の携帯品目の制限、所持金額の限度が公表さ

れると、忽ち朝鮮人側に不買同盟的なものが成立し、日本人貨財の処分は不可能になった。

その頃、時機を見計って市中の各所に「引揚日本人の荷物一時預り所」が開設され、溺れる者は藁をもつかみたい窮地の日本人は、物資缺乏の戦時中に大切に保守して来た品物を荷造りし、保管料と日本宛の送料概算額を添えて、続々と持ちかけ、一片の受領証と引き換えたが、翌日には内容品が市内の古物商の店先に山と積みあげられるといった喜悲劇もみせつけられた。

諸官衙は統制力も指揮能力もない形骸に化し、名義だけの日本人幹部は小使や給仕さえ使えない実情であった。現業では現金は着服され、備品は盗まれ、永年精密で名の通った通信業務に生きた者にとっては、耐えられない苦悶であった。

○ 稀に見る識見の人李完植氏

幸にも私の後継者に任命された李氏は、従前には地方の特定局長の経歴を持った人で、私は個人的には未知の人だったが、夙に日本人責任者の苦境を現実に理解

し、急政変によって破格の地位を得た朝鮮人通信局の幹部に対してはその権柄ぶりを痛憤して、敗戦を境にして紊乱した局務上の欠損金や官品盗難の被害等は、李氏が自発的に責任をもって現状のまま引継ぐ決意を固め、自ら辞表を用意して当局との折衝に当たった。

李氏は日本人幹部局員のために一夕送別会を催した席で、「あなた方日本人責任者は、敗戦後に悪質局員による業務混乱を体験せられ、ほんとうにお気の毒に耐えませんが、しかし皆さんに代る私たちも、何時また不慮の情勢変化に苦しめられることが判ったものではないありません。お互に小国に生れた宿命はどうにもなりません……」

李氏の不安な予言を証(あかし)するかのようになり、一九五〇年(昭和二十五年)六月には朝鮮戦争が勃発し、首都ソウル(旧京城)は往復二度も激戦場となった。往年の李氏は今も健在なりや否や知る由もないが、蓋し感慨無量である。

第二次大戦が尾を引く世界の分断国家は、東西両ドイツ、南北ベト

ナムと南北朝鮮であるが、「南北合せて百万の大軍が命令一下、いつでも直ぐ常備戦斗体制にはいれる所は、矢張り朝鮮半島だけである。」と評論家が説明する現下の世界情勢の一大焦点と、一衣帯水の日本安全とは決して無関係ではあり得ないであろう。日本人たる者は、国家民族の安全と平和をどうして確保し得るか真剣に考えたものである。

(一九六九年六月三十日)

従軍回顧

松山 山崎 義己

一、出 発

集合場所の大阪中央郵便局の屋上について見ると、驚いたことに軍服姿の夥しい人の数、通信局の通達には、服装は国民服、国民服のない者は背広にても差支えなしとのことであつたのに、なんとこの厳めしい服装は、と目を見張らされたものでした。後で聞くと軍服姿の人々は前に従軍したことがある人、又は前に従軍した兄弟や友達のを借りたり貰ったりして着て来た人でした。

午後七時半に点呼が済むと総員三百十七名は大阪中野の非常階段を降り、地下道を潜り抜けて大阪駅に出て、手配されていた列車に乗り込みました。

七月十六日午後八時前という瀬戸の夕風と言って風の止む蒸し暑い時刻でした。列車の窓は全部締められており、詰襟の国民服の首からは油汗がにじみ出て来たのでした。それでも発車してか



らは和らいで来まして、ハンカチで顔の汗を拭きながらも隣席の人に小声で話しかけるまでになりました。むし暑い夜も十二時を過ぎると涼しくなり、腰かけた儘でも睡られたものでした。朝の弁当が配られましたのを見ますと駅弁でなく、国防婦人会寄贈のお握り（日の丸弁当―梅干入り）に福神漬のお弁当でした。昼は柏餅でした。寄贈者は忘れましたが、食糧事情の窮屈になって来たときに、私等のためにこんなまでの心尽しと、心の中で手を合せて頂いたものでした。私等の列車は食事時間の外は駅に止まりません、窓も締め切って何処を走っているのかわかりません。もっとも行先は誰にも知らされてはいなかったのですが、どうも列車の進みぐあいでは西へ行っているようでした。案の定、列車は下関の駅に着き、総員は関釜連絡船（当時の名称）に乗せられました。十七日の午後一時を少し過ぎた時分でした。

た。釜山の港には午後九時に着きました。もう蒸し暑さもなく涼し過ぎる位でした。棧橋から二百米そこ／＼の処に手配されてあった列車に私等全員順次乗り込みました。そこで私等は初めて満洲へ行くのだなと感づいたものでした。翌日太田という駅の構内で私等の列車は貨車や客車の間に隠れるようになつて停りました。停っている車中の四時間というものは日中の暑さも加わつて本当に長／＼／＼ものでした。龍山あたりで初めて窓が明けられました。朝鮮の家の軒の反っている屋根、青や赤の壁の色を珍らしく眺めつつ私等の列車は平壤も過ぎ国境（当時の）に差し加つたのが午後の十二時過ぎでした。鴨緑江を渡る数分、この間、故国を離れる淋しさと重要任務に就くのだという責任感とが心中に交又したものでした。

一 望千里の大豆畑の中を列車は走り続けました。土塀に囲まれた土饅頭のような五、六戸かたまつた家が時々に見受けられるだけでした。日露戦争の激戦地奉天を過ぎて六時間余りで新京（長春）に着いたのは出発後四日目の午後四時でございます。その晩は満洲電信電話会社から久しぶりのビールに酒に魚に、肉に豪華な供宴を受けたものでした。その翌日奉天、齊々哈爾、哈爾濱、大連、牡丹江へ分遣されることになり、私等は奉天に出発いたしました。

二、奉天中電夜勤の一日

私達は奉天（瀋陽）の北大営にある当時の満洲軍部隊の兵舎に宿舎を興えられました。奉天中電へは北大営の兵舎から徒歩でバス停留所まで七、八分バスで小西通門まで二十五分そこから五、六分歩いて通勤しておりました。

電報局の通信課の勤務でしたが夜勤もありました。八月中旬の或る夜のことでした。北京線の無線受信機はブザー、ブザーと尾を引いており、鍵盤はリズムカールに、タイプライチングは低音に、モートルは煽情的に―それ／＼特異な音響がかもし出す大交響楽を奏しつ、戦時下の重要通信業務は遂行されていたのでありました。

午後八時過ぎのことでした。もの凄いな雨の音です。私等は午後九時帰ります。傘も雨衣も持たせておりません。そこで私は主事さんに傘か合羽を借用したいと申し出ましたところ主事さんは「雨は三十分余りで止みますよ」と大して気にもとめてないようです。（満洲の雨は本当に大きな水滴です、ザーツと降り続けて、サツと霽れあがるのです）

ところがその夜の雨は仲々やみそうにないのです。そうこうしている中に退局の午後九時も過ぎました。あわてた私は再び主事さんに「自動車でも出して貰えませんか」と申し出ましたら、主事さんの方でも「もうやむのですか、ねー、一寸待って下さいよ」と急いで電話をかけに行きました。やがて主事さんは「お待ちせしめました。トラックですがご辛抱ねがいます。狭いですが、詰めて乗って下さい」と言って出口の方へ案内して呉れました。

私達は奉天管理局のトラック（四角に柱を立てカバーをかけたもの）に十一人が詰め込まれ北大営の衛門を乗り入れました。衛兵は銃剣のまま追いかけて来ましたが、トラックを停めて「通信派遺負山崎義巳外十名は只今帰りました」と申告しましたところ、衛兵も「ご苦労でした」と気さくに

引き上げました。丁度その時に雨が
あがったのでした。(未完)

短歌

遍路行

松山 藤田 基孝

弘法と 同行二人の

遍路われ 金剛杖を

打ち鳴らしゆく

八十八番 打ち終へるまで

みほとけに すがりて行かむ

遍路心に

日に三たび 人のかどべに

経を読み 遍路は物を乞え

と教え給う

すみれ咲く 畦の草生に

足を伸ばし かわきし喉に

ジュースを流す

道にまよい 心ようやく

さはぐとき 処女出でて

吾をみちびく

松の蔭に 辯当食めば

目な下の 池の鳩鳥

ほろほろと鳴く

息喘へて 登りし山の

いただきに 虚空蔵菩薩

目守りあましき

くろがねの 碓すえたる

土間に入り 善根宿を

吾は乞いたり

許されて 上りがまちに

坐るとき 吾が腰の鈴

低く鳴りたり

うっし身を 透かせてひたる

露天風呂 棕櫚の黄の花

こぼれきにけり

岩くぐる 湯滝の下に

身を沈む 五月の風の

少しつめたく

境内を うづめてぼたん

咲きたれば 老いたる僧は

庭にテントを張る

帰りには 幾度か寄る

寺の庭に 菩提樹の花

いまだ開かず

中風に 長病む友は

首をもたげ うつろの如く

吾を見て居き

肩をなで やさしく言へば

ほろほろと 涙流して

友のよろこぶ

七人目の 孫の生るるを

楽しみて 歌にはげめば

ひと日みじかし

催眠若返り法

(百回暗示法)

週刊誌から抜粋

松山 山崎 義巳

ベッドにゆつたりと横たわり、
心身の緊張をほぐし、雑念をはら
います。

目を閉じて、ゆっくり腹式呼吸
法を五回行います。

一つ、鼻から腹いっぱい息を
吸い込み、一杯になったら口笛
を吹くように静かにゆっくり吐
き出します。

二つ、やや大きく吸い込み、吸
い切ったら腹がべっしょんこに
なるまで吐き出します。

三つ、更に大きく吸い込み、静
かにゆっくりと腹の皮が背骨に
くっつくまで吐き出します。

四つ、やや軽く、このあたりで
心がだんだん落ち着いてきま
す。

五つ、軽く、益々落ちついてき
ます。



心の中で、自分の息をひとつ、ふたつと数えながら、息を吐き出すたびに「全身の力が抜けてゆく—どんだん抜けてゆく—」と自分に言い聞かせます。このとき、りきまず、あせらず、さりげなく暗示するのです。

心がおちつくに従って全身の力が抜け、まわりの音にも無関心になりぼんやりしてきてだるく感じています。これであなたは催眠の入口に来たのです。

これから「疲労恢復して若返る」ための暗示を全身の各部に—
○回宛約一分間づつの暗示をくり返します。

(一)目 (二)あご (三)首 (四)肩 (五)両手足 (六)背中 (七)胸 (八)腕 (九)腰 (十)両足の順に行います。

(一)目のまわりの力が抜けてゆく
目のまわりがだんだん軽くなってゆく
軽くなるにつれて
ゆったりしてくる
だんだんだるくなってくる。

こんなふうにして全身の暗示が終る頃にはほんとうにだるくなつて来ます。そして眠ってしまいうになり、どうされてもよいよう

な気持ちになります。うっとりしたよい気持ちを全身にじーんと満たすようにその思いにしたりります。

みなさん一度お試しになって見て下さいませんか。(終)

故松本久米一氏 を悼む

松山 山岡 庄三

私は私の最も敬愛する友人、松本久米一氏の追悼の言葉を書くにあたって日経新聞に、「私の履歴書」を連載して居られた元三菱電氣社長高杉晋一先生の一説を思い浮べます。

人間は生れながらにして避け難い運命を背負って生れている。これはある程度は努力によって補うことができるが、それ以上のことは到底人間の力では動かすことができない宿命であると述べられております。

私はこの言葉を松本君との交友関係を通じてしみじみと感じさせられます。松本君は会計人事資材厚生と言うように萬般の事務に精通し、しかも温厚、篤実、人一倍

の努力家でありました。しかし又彼ほど波乱の多い人生を送られた人も数少ないと思われれます。例えば彼がその手腕を買われて、松山通信局開局当時物品会計事務が停滞した時に、会計官吏として多度津へ赴任し、単身自炊生活を送りながら残務整理促進に身を削る努力を為されたのであります。又建設部工事残品についての警察署への交渉、配給局長当時の部下の不詳事等、彼の行く処受難の連続でございました。その都度事件を敏速に処理上司に迷惑をかけぬよう、又部下の不始末をかばうよう細心の配慮を重ねられました。

戦国の武將、山中鹿之助の「憂きことのなおこの上に積れかし、限りある身の力ためさん」と云ふ歌を信条として活躍しておられた生前の松本氏の姿を思い浮べます。その反面交遊関係も広く、酒も嗜み、刻時分ともなればレストラン等で歓待し財布の底をはたくと言ふような友情に篤い人でもありません。部下昇進のためには一肌二肌も脱ぐという人でもありません。

彼が廿才前後の時に大阪の三流カフエーに案内された際のこと

した。用心棒の勇肌の前で注文品の催促に机を叩きまくる度胸の良さもありました。又勤務の余暇を関西大学の専門部に学び精励よく卒業の栄冠をかち得たと言ふ意志強固な努力家でありました。私が昭和十二年大阪通信局工務部大阪電話区調理班担当から、故郷の高知工務出張所庶務係長を命ぜられたの転任の際は、午後十一時五十八分と云ふ夜行列車にわざ／＼大阪駅に見送って頂きその上過分の饒別を丁戴したことは今も忘れられない感激でございます。

この松本氏が胃癌(本人には知らされていなくてであろうが)という不治の病で僅々二ヶ月の病床生活で永眠されたことは残念に堪えません。昨年末彼が拙宅を訪ねてくれたときも達者で、これから十年は若い者達の為めに頑張ると言っている居られたのに、三月発病—五月二日幽明境を異にせられたのでありまして哀悼の涙止め得ないものでございます。

夫の病が胃癌と病院で聞かれた奥さんの心痛はいかばかりかと思われれます。夫には勿論近親者にも知らされず不眠不休で看病され杖とも柱とも頼む夫君を失われたこ

とをお悼ましい限りと私も泣かして貰いました。
凶年六十三歳、天春秋を与へ惜しまれた故松本久米一には霊界においてはよなき平安を十二分に与へ賜われかしと合掌再拝してペンをおきます。

二 連絡

※小松重幸様から

今年初め急性肺炎から肋膜炎を併発し、通信病院に四ヶ月余入院、六月初に退院して自宅から通院しながら療養に専念しているのですが、医療給付の点で退職者の処遇は公社職員の家族よりも数段劣っているが、せめて公社職員の家族なみにして貰えないか、といふ意味のことを電友会の方から申し出て貰いたいのことでございました。それで本年の九月十一日に通信局へ問い合わせましたところ次ぎのようなことになりましたので、電友会の方でも中央(退職者の連合会の本部)へ申し出て、本社の方へ働きかけたいと思います。

1 現在退職者の医療費単価六

※安岡富様から

円、職員家族は四円となつていのです。——通信病院の方でも、通信局へ意見を具申しておられるようですし通信局としても目下検討されておるようです。何分規定を改定することですから簡単には参らないかとも思われます。なお入院費の一万円以上の分の公社負担の件については、公社職員家族に限る特別措置とのことで、この点は我々は辛抱しなければならぬことかと思われます。

神経痛で四十二年一月から病床についておりますが、健康な皆様方のお姿が羨ましく存じますとのお歎きの便りがありました。お気の毒に存じます。神経痛はまことにいやな病気です。私も坐骨神経痛で三十年もつらい思いを致しております。今まで医師の治療も、又外にもマッサージや電気や灸等々、良い人から聞けば直ちに実行したものでした。本当に仲々全治しにくいものです。それでも最近はい時が寒い日には痛みが厳しい時がありますが、その時以外

は普通の人と変りなく動作することが出来るのです。数年前から本で読んだのですがマッサージを自分なりにやっております。ご参考までにその要領を書いてみましたから、先づ一週間、朝起きる時、夜寝る時、自分でやるか、誰かにやってみて下さい。

一、両手の手のひらで、足首からものつけ根に向つてよくさすります。そのあと痛いところを手のひらで軽くもみ、また軽くさすります。
二、つぎに腰全体を上下によく

両手の手のひらでさすります。そして軽くもみ、そのあと両手の指先で腰椎の両わきを背中からお尻へかけて圧迫してゆきます。
三、肋間神経痛の場合は、胸全体からわきを手のひらで輪をかくようにしてさすります。

これを二、三回くりかえして手のひらと指で軽くもみ、つぎに手のひらをそのまま胸に押しつけて圧迫します。時候も良くなりました。気永に、気楽に、無心に、養生して下さい。快方に向われることを

一重にお祈り申し上げます。
※大元新平様から

外地加算の件でお訊ねがありましたので、通信局の厚生課へ問い合わせましたところ、確かにご送付の履歴書(外地勤務関係のもの原本)が通信局の書類にも添付してありました。大本様が従軍されたときに恩給公務員(昔の通信局技手、通信技手、通信局書記補、通信書記、通信局書記等任官者)でなかったのが規定の上で加算せられないとのことでした。ご了承承ねがいます。

※共済会から

電電公社を公傷や、十五年以上勤続して退職されたかたとその遺家族、在職中に死亡された職員の遺家族のかたで、生活にお困りの場合には、次ぎのように援助させて頂く制度を本会で作りました。

明日にも生活にお困りのかたには生活補給費または特別補給費を……、生活のために職業を身につけたいかたには職業指導費を差しあげます。更生のために資金の必要なかたは生業資金を……、災害などで住宅の

補修のために資金の必要なかたには住宅資金をお貸しします。

イ 生活補給費の給付は

生活保護法による保護や、増額を申請中の場合にその申請が承認されるまでの間の生活費を差し上げるものです。

ロ 特別補給費の給付は

傷病、失業、災害、事故などで生活に困った場合に五〇万円以内で補助的に差し上げるものです。

ハ 職業補導費の給付は

生活のために新しい技能を覚えようとするかたに必要な費用を差し上げるものです。

ニ 生業資金の貸付け

生活のために商売をしようとする場合に十五万円までお貸しするものです。

ホ 住宅資金の貸付け

住居がこわれたり、古くて修理をする場合に十五万円までお貸しするものです。

ヘ 貸付金の返済は

お貸しした月から六ヶ月間据置いた後六ヶ月以内にお返しいただくもので、利息は年二分四厘です。

以上の援助を受けたいかたは

共済会の生活相談員にお申し出て下さい。

※電気通信共済会四国支部の生活相談員は差し向き総務部長

毛利正雄がこれにあたります。

なおこの外家庭でのよろず相談に応じます。手紙でも電話でも又直接おいでになっても結構です。相談の秘密は厳重に守ります。

お悔み

今年次ぎのようにご自分の分身であらせられるご令閨を失れた方がございます。まことにお気の毒に堪へません。

深く哀悼の意を表しますと共に、ご令閨のご冥福を祈ります。

松山 鳥飼一太郎氏

ご令閨 末美様

松山 永井佐加一氏

ご令閨

宇和島 吉見 春雄氏

ご令閨

編集後記

山崎生

蕪の花の無垢清浄光に掌を合せ、微風に揺れるコスモスの花にかたくなな心をほぐしたいと思えます。皆さんお変りはごいませんか、お伺い申し上げます。

いちぢくが美味しく、間引菜の汁の風味また格別、やがて松茸も出てまいります。ご病氣の方は快方に、お達者な方にはますます強健に向わせられるよう願いたします。

総会の時期が近づきました。今年十一月七、八日頃になると思われます。会場その他次第は大體昨年どおりに行われると思えます。久々にお会いする方々、又本年ご入会の方々と一堂にあいまえ、和氣藹々裡に、すぎこしかたをなつかしみ、ゆくすえをお互いに力づけたいものです。お元氣なお顔を見せて下さい。お待ちしております。

次ぎは新年号になると思われま

